

## SPF 豚認定農場における医薬品の使用状況について

名 越 仁 宣 (株シムコ)

Nagoshi, H. (2017). Veterinary medical products used in SPF swine farms

All about SWINE 51, 21-23

SPF 豚認定 CM 農場では、特定疾病が不在またはコントロールされているためコンベンショナル CM 農場よりも薬品費が少ないと思われる。

今回、昨年6月から本年3月まで4回の認定委員会において認定されたCM一貫生産農場および一部のマルチプルサイト農場における抗菌性物質、ワクチンおよびホルモン製剤等の使用状況をカテゴリー別、また、抗菌性物質は金額ベースにて調査したので、以下に報告する。調査農場数は115農場。出荷肉豚一頭あたりの抗菌性物質の使用金額は約209円だった。抗菌性物質に関しては、母豚規模が50頭の農場も、2,000頭の農場も等しく1農場として処理されるよう、総額に対する割合(%)を算出して、剤型別、分類(系)別に集計してまとめた。

### 1. 抗菌性物質の使用状況

剤型としては、金額ベースで散剤(可溶散を含む)が55%と多く、次いで注射薬が42%、液剤は商品が少ないせいもあるが3%だった(図1)。

次いで、分類(系)別では図2に示すようになった。

分類ではペニシリン系が最も多かった。その理由として、病気が少なく予防的に投薬する必要がない農場では、ペニシリンやアンピシリンの注射

薬だけを購入している場合が多かった。次いでチアンフェニコール系だが、実態はすべてがフロロフェニコール製剤である。

同製剤は主にApp対策として使用されているが、剤型としても散剤、注射薬、液剤と揃っており、ジェネリック製品も発売されているため高い使用率になったと思われる。

3番目がフルオロキノロン系で、ほぼ注射薬に限られ最も多いのがエンロフロキサシン製剤である。

4番目がセフェム系だが、商品としては注射薬のエクセネル1種類だけである。

次いで複合製剤はペニシリンとストレプトマイ

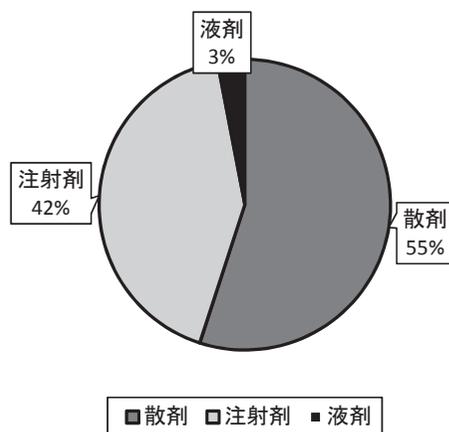


図1 剤型別抗菌剤の使用状況

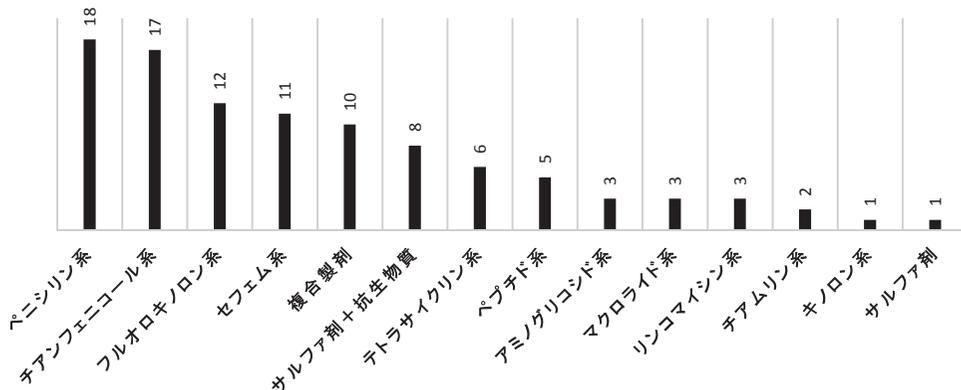


図2 成分別抗菌剤の使用状況

シンまたはカナマイシンの合剤で、サルファ剤と抗生物質の合剤は、ほとんどがST合剤である。

7番目がテトラサイクリン系で、ドキシサイクリン、OTCまたはCTC製剤である。

このテトラサイクリン系は価格が安い下位だったが、その剤型はほとんどが散剤であり、量的には最も多かった。

## 2. ワクチンの使用状況

図3では、ワクチンの種類ごとに使用している

農場の割合でまとめた。

ただし、豚丹毒ワクチンに関しては、繁殖豚には様々な豚丹毒との混合ワクチンがあるので、肉豚へもプログラムで接種している農場だけをカウントした。

まず、最も使用割合が多かったのはPCV2ワクチンで99%だった。具体的には115農場の内114農場で使用されていた。このPCV2ワクチンに関しては、高い予防効果が認められているが故にほとんどの農場で使用されていると思われる。

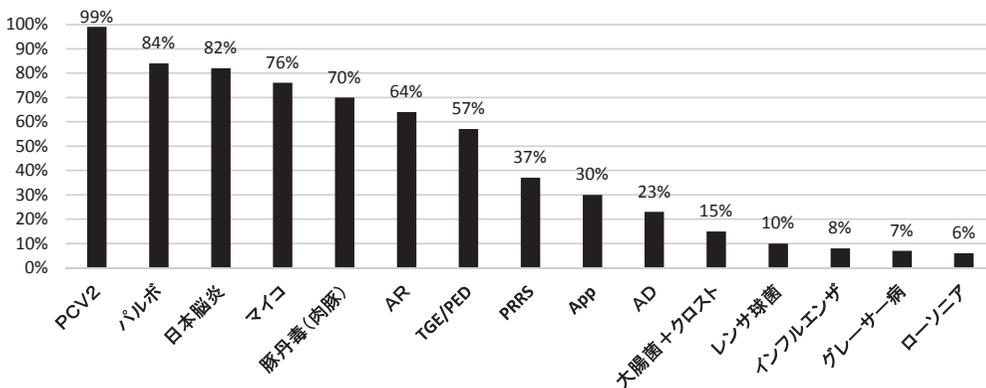


図3 ワクチンの使用状況

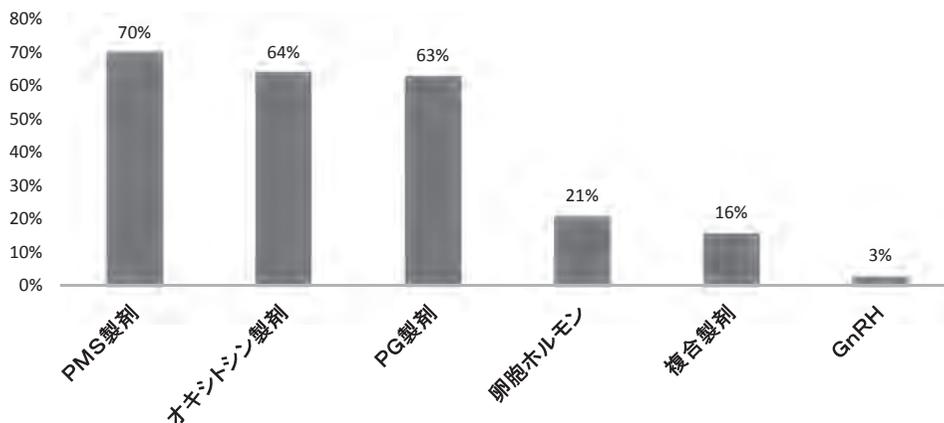


図4 繁殖用ホルモン剤の使用状況

次いで、パルボと日本脳炎。これらは混合ワクチンがあり使用割合が高いが、2回目にパルボまたは日脳単味不活化ワクチンを用いて、LKで接種する農場が最も多かった。

4番目にマイコだが、これは混合ワクチンにマイコが入っているものも含んでいる。

豚丹毒は前述したように、肉豚へもプログラムで接種している農場だけをカウントしたが、生ワクチンと不活化ワクチンの占有割合では、ほぼ同じくらいであった。

次いで、母豚接種用のARとTGE/PEDワクチンだが、TGE/PEDワクチンは3～4年前から急激に使用する農場割合が増えたのは言うまでもない。

また、ADワクチンも23%の農場で使用されているが、gI抗体はすべての農場で陰性である。地域防疫なので、接種が義務付けられている農場ばかりである。

### 3. 繁殖用ホルモン剤の使用状況について

ホルモン剤についてもワクチンと同様にホルモンの種類ごとに使用している農場の割合で集計した。

繁殖用ホルモン剤を上記のように6種類で分類した(図4)。

この分け方が適切とは言えないかもしれないが、少なくとも私には分かりやすい。

まず、PMS製剤、オキシトシン製剤、PG製剤の上位3点は、6割～7割の農場において使用されていた。4位の卵胞ホルモンとは、エストラジオール製剤またはホーリンである。

ただし、これらのホルモン剤が、全母豚を対象にプログラムされているかどうかまでは正確に調査していなかった。

金額的に微妙で分かりにくいものもあったが、全体にプログラムされている農場は2割以下で、多くの農場では常備して異常があったら個別に使用しているようである。